



地域交流活動かわら版

2016/12/9 杏林大学 地域交流課 vol.21

第 25 回 三鷹市民駅伝大会に 救護協力と大会補助ボランティアで参加！

平成 28 年 11 月 20 日（日）に「第 25 回 三鷹市民駅伝大会」が開催されました。三鷹市役所をスタート地点として、中学生からシニアまで 187 チームが参加し、三鷹市内 12.2 キロメートル、4 区間のコースを晴天の中、熱のこもった走りが繰り広げられました。また、今大会から小学生 5～6 年生対象に「走りっ



こ教室」も実施され賑やかな大会となりました。同大会に保健学部の教員 3 名(救急救命学科・阿部和巳、小菅真昭、山崎章彦)、学生 14 名が、本部・各中継所、走りっこ教室が行われた体育館において救護活動を実施しました。また、大会補助のボランティアとして外国語学部の学生 8 名が参加しました。特に大きな事故や怪我や急病人の発生もなく、参加者の安全確保が図られ駅伝大会の一助となりました。

『早朝 7:15 に集合し、各配置ポイントに向かい、ランナーの安全と大会の無事故を見守りました。消防署の方とも一緒に参加できて勉強になりました』など、有意義な活動であったことを話してくれました。

さらに三鷹市との交流を兼ねて、陸上競技部も初めてエントリーした結果、一般女子の部で堂々第 2 位に輝くことができました。



『井の頭恩賜公園西園にある競技場などで練習した成果が発揮できました』と、初参加での健闘をメンバー全員で称えていました。

MITAKA

医学部「地域と大学」で 1 年生が “三鷹市の医療と福祉”をテーマに学習発表会を開催。



医学部 1 年生が地域の現場から学ぶ必修科目「地域と大学」の学習発表会を平成 28 年 10 月 28 日（金）大学院講堂で行いました。

共通テーマの「三鷹市の医療と福祉」について、各グループが自ら設定した課題に対し、街に出てその課題に関連する仕事に携わっている方達に直接お話を伺いし、地域から学ぶという実践学習を体験することで、社会が医師・医療従事者に望んでいることを実感してもらうものこの科目のねらいの 1 つです。参加した

学生からは「実社会の中で人とのコミュニケーションを図ることの大切さを学び、視野を広めることができました」「医療以外の情報も得ることができて、知識の広がりを感じられました」「協働して何かを創り上げることの重要性を感じました」「これから医療の現場で働く時に必要な、人との関わりを学ぶ事ができました」などの感想や意見が得られました。



八王子バドミントン連盟主催の応急処置・テーピング講習会 の指導助言役として学生が活躍。



平成 28 年 11 月 24 日 (木)に八王子市富士森体育館において、八王子レディースバドミントン連盟に所属する皆さんを対象とした救急・テーピング講習会に、保健学部の教員 1 名(理学療法学科・門馬 博)、学生 3 名が参加して運営にあたりました。バドミントンは子どもから高齢者まで幅広い年代の方が参加できるスポーツですが、競技としては体育館内の高温多湿な環境下で、熱中症や外傷・障害の対策が重要といえます。講習会では「熱中症の予防と対策」「バドミントンに起こりやすいケガとテーピング」という内容で講義を行い、最後にはテーピングを用いての実技指導を行いました。また、参加した学生にとっては、熱中症についての講義やテーピングの実技などの数多くの体験が参考になる活動となりました。

当日は観測史上初となる 11 月の大雪という悪天候の中でありながら、50 名を超える参加者が集まりました。



HACHIOUJI

八王子市の平岡町で健幸教室と体力測定会に 保健学部学生 12 名が参加。



平成 28 年 11 月 12 日 (土)に八王子市平岡町町民会館において、八王子市平岡町在住の高齢者を対象に健幸教室と体力測定を実施しました。この活動に保健学部の教員 2 名 (理学療法学科・榎本雪絵、相原圭太)、学生 12 名が参加しました。学生は会場整備や誘導、体力測定の実践・補助を行いました。八王子市からは平岡町在住の高齢者の方が 14 名参加され、皆様の体力測定を丁寧にサポートしました。参加された高齢者からは「学生からの指導や交流がとても有意義なひと時でした」との言葉を頂きました。

長谷川浩先生の「認知症～誰にでもあるもの忘れと予防につながる生活について」 の公開講演会を実施。



平成 28 年 11 月 10 日 (木)羽村市コミュニティセンターにおいて、長谷川 浩 先生 (杏林大学医学部高齢医学教室) による「認知症～誰にでもあるもの忘れと予防につながる生活について」の公開講演会が行われました。現在 65 歳以上の 4 人に 1 人が認知症とその予備軍とされ、認知機能になんらかの問題があると言われていています。また今後もその数はさらに増えると推定されています。そもそも認知症はどのような病気があるのか、どのような症状がでるのか、どのように対応すればよいのか、困ったときにどこに相談すればよいのかなど、現在われわれが行っている地域連携も含め、地域でどのようにしていけばよいのかを参加者と一緒に考える機会となりました。

地域の方々の関心も高く、参加者 72 名の好評な講演会となりました。